

## 平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立庄原特別支援学校		
学校長氏名	米原真弓	栄養教諭氏名	白根玲子
職員数	60 名	児童・生徒数	83 名

### 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ① 障害特性による、強い執着による偏食などの課題が見られる。
- ② 食形態が口腔機能にあっていない児童生徒がいる。
- ③ 生活習慣の基本である「早寝・早起き・朝ごはん」において、定着している学年とそうではない学年がある。
- ④ 朝ごはんを食べないで登校する児童生徒は減少傾向にあるが、朝ごはんの内容に課題がある。

### 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

児童生徒が「健康で安全に生活ができるための習慣」に関する聴取調査票

項 目		第1回 (5月)	第2回 (9月)	第3回 (1月)
1	早寝早起き（朝7時頃までに起床、夜10時頃までに就寝）ができている。			
2	朝食を毎日食べることができている。			
3	好き嫌いをせずに食事することができている。			
4	一日1～2ℓ 程度の水分がとれている。			
5	家庭と学校で定期的に運動をすることができている。（1日1時間程度のスポーツ、ストレッチ、体を動かす遊び等）			
6	十分な休養をとることができている。（土日などに体を休める時間をとっている等）			
7	排便などが定期的にある。			
8	歯磨きが毎日できている。			
9	病気にからならないための予防ができている。（手洗い、うがい、爪切り、マスク着用等）			
10	病気がかった時の対処ができている。（薬を飲む、受診する、体を休める等）			
11	ストレスがかかっている状況にあるとき、ストレスを発散するなどの対応ができている。（スポーツなどして体を動かす、深呼吸する、歌を歌う、声を出す、音楽を聴く、好きなことを行ったりリラックスする、誰かに相談する等）			

項 目		第1回 (5月)	第2回 (9月)	第3回 (1月)
12	けがをするような行動を避けることができている。（きまりを守って遊具等を使用する、危険な行動をしない等）			
13	けがをしてしまった時の対処ができている。（血を止める、消毒をする、傷を保護する、冷やす、固定する、周りの人に知らせる等）			
14	交通ルールなどを守って安全に行動できている。（横断歩道や歩道橋を渡る、歩道を歩行する、自転車に乗るときのルールを守る等）			
15	防災について意識があり、災害などに対応ができる。（適切な避難行動、適切な場所への非難、防災グッズの事前準備等）			

評価方法  
○ できている、ある等（支援があればできる、誰かと一緒にならざる場合も含む）

評価基準		A
聴取調査により保護者、担任の意識を啓発し、児童生徒が健康で安全に生活ができるための知識と技能を身に付けさせる取組へと繋げる。	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が 50% 以上	A
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が 40～50%未未満	B
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が 30～40%未未満	C
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が 30%未未満	D

### 3 食育の目標に対する具体的な取組

#### 【取組 1】（テーマ） 「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を進める。

- ① 5月の給食試食会で、保護者に朝ごはんの大切さについて説明を行った。
- ② 「はやね・はやおき・あさごはん」の取組強化週間を、年3回一週間設けた。  
ア 登校時に「はやね はやおき あさごはん」の曲を校内放送で流した。  
イ 「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシートに記入を行った。
- ③ 教室巡回やけんこう通信による啓発を行った。
- ④ 啓発リーフレットや早寝早起き朝ごはんガイド（発行「早寝早起き朝ごはん」全国協議会）を配付した。
- ⑤ にこにこ祭で、クイズ形式のスタンプラリーや掲示を行ったり、朝ごはんのレシピを作成し配付したりした。
- ⑥ 集会等で朝ごはんの大切さについて説明を行った。

#### 【取組 2】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

- ① 生活単元学習（小学部） のびのび探検隊～学校のひみつ 給食室  
給食で使う道具を実際に見たり触れたり、釜の大きさを確認するために、ダンボールで作った釜の中に入ったりして、大きさを皆で確かめた。また、給食で使用する野菜を洗って、皮むきに挑戦した。その野菜を、調理員さんに切っていただき、その後、給食で食べた。
- ②生活単元学習（中学部）心と身体の健康  
睡眠、運動、食事の中でも特に食事について、学級担任と栄養教諭が連携し指導を行った。導入で、栄養の歌を歌ったり、赤・黄・緑の食べ物をグループ分けしたりして、からだの健康には、バランスの良い食事が大切であるということを学習した。
- ③保健体育(中学部) 衛生と健康



心と身体の健康の単元で、正しい手の洗い方について指導を行った。調理員さんの手洗いを動画で映し出して、みんなの手洗いと比べたり、ブラックライトで洗い残しを確認したりした。



#### ④生活単元学習（中学部）夏休みに向けて

長期休業に入る前に、おやつのとり方について指導を行った。子供たちが大好きな清涼飲料水の砂糖の量について話をを行った。1日分の砂糖の量と、清涼飲料水に含まれる砂糖の量を実際に目で見て確認をした。飲む時には、時間や量に気をつけること等を話した。

#### ⑤保健体育（高等部）卒業に向けて

ア 健康に過ごすための食生活、食品の選び方の指導では、栄養成分表示の塩分・エネルギーを中心に指導を行った。

イ コンビニエンスストアの上手な利用の仕方の指導では、コンビニエンスストアで売られているものをいくつか絵カードで準備して、自分でほしいものを買うという流れで指導を進めた。その後、バランスや量について専門的な立場で指導助言を行った。

#### ⑥ その他、「生活単元学習」・「総合的な学習の時間」

朝食の働き、バランスのとれた朝食、簡単朝食を考えよう、調理実習の事前学習で調理器具の使い方・野菜の切り方等の指導を行った。

#### ⑦ 日常生活の指導（全学部）

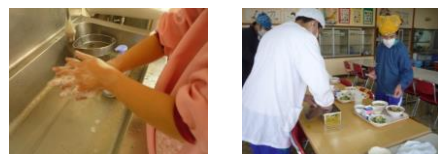
朝の会、給食の時間、帰りの会において、担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導

ア 教科などで学習したことを、学校給食を通して確認をした。

イ 献立を通して、食品の産地や栄養についての指導を行った。

ウ 給食の配膳から片付けまでの一連の指導を行った。

（配膳指導、下膳指導、食器の並べ方、はしの使い方、食事マナー、正しい手洗い等）



### 【取組3】（テーマ）一人一人の発達段階に応じた食形態等の個別指導の充実

#### ①言語聴覚士による指導及び研修

口腔機能やアセスメントに係る職員研修を行い、児童生徒一人一人のアセスメントに基づいた、口腔機能にあった食形態を実施した。その結果、児童生徒の口腔機能に変容が見られ、むせ・せき込みの減少、体重増加等の成果が出てきている。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

#### ① 「ひろしま給食」レシピ及びキャッチコピーの募集依頼

#### ② 食数調査依頼

#### ③ けんこう通信等を通じて保護者に働きかけ

#### ④ 「ひろしま給食」統一メニュー「タコタコライス」に合わせて、特別支援学校統一メニュー「トクトクポトフ」を食育ウィーク中に提供

#### ⑤ 保護者試食会実施

#### ⑥ 毎月「ひろしま給食」を1献立以上提供する。



## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

どの学部においても、「主食・主菜・副菜の食品がそろった朝ごはんを食べている児童生徒」が増加した。一方で「朝食抜き」の児童生徒も増加した。

保護者や生徒に意識の向上が見られ、「何か食べればいい」から「栄養バランスを考えた食事の摂取」を考えて食べることができるようになってきた。

### 【課題】

「朝ごはんを食べないで登校する児童生徒」「主食・主菜・副菜の食品がそろった朝ごはんを食べていない児童生徒」は固定化している。朝ごはんについては、家庭の状況によるものが大きいですが、家庭・学校と連携して意識の向上に向けた取組を推進する。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

① 早寝早起き朝ごはんの取組を継続して行う。「なぜ朝ごはんを食べないで登校するのか」等々の理由を明確にして、保護者を巻き込んだ指導ができるようにする。

② 教科等における食に関する指導は、栄養教諭の専門性を生かした指導ができるように全体計画や年間指導計画の見直しを行い、指導の充実を図る。

③ ひろしま給食100万食プロジェクトを活用して、地場産物や郷土料理についての関心を高め、食育の推進を図る。